

(別紙 1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 5月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	2770105332		
法人名	シャローム株式会社		
事業所名	グループホームやすらぎの介護シャローム泉北		
所在地	大阪府堺市堺区大仙中町6-24 (電話) 072-295-0080		
評価機関名	株式会社H. R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成 20年 4月 11日	評価確定日	平成20年5月27日

【情報提供票より】 (20年3月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 6月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	19人	常勤3人, 非常勤16人, 常勤換算19人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建て	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有( ) 円 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(500,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		0 円	

(4) 利用者の概要 (3月26日現在)

利用者人数	9名	男性	5名	女性	4名
要介護1	1	要介護2	4		
要介護3	1	要介護4	1		
要介護5	2	要支援2	2		
年齢	平均 83歳	最低	66歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梅田クリニック・恒進会病院・山本歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田畑が残る住宅地に位置する平屋建てのグループホームであり、屋内は自然な採光が取り入れられ、家庭的で落ち着いた居心地の良い場所となっている。キリスト教精神に基づいた、開設当初職員全員で作りに上げた理念の下、利用者の尊厳・個別性を尊重し、一人ひとりが自分のペースでその人らしく過ごせるような支援が行われている。日中散歩・家事への参加・地域との交流の中での生きがい作りなど、日常生活の中で無理なく心身が活性化できるように配慮されている。また、重度化しても利用者・家族の希望があれば終末期までホームで過ごせるように、職員が一丸となって取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価結果は職員全員に回覧し、向上会議でも発表し、改善策を話し合い、改善に向けて取組んできた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の評価項目についても向上会議で説明し、管理者が作成した自己評価を回覧し、職員の意見を取り入れて完成させた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	行政担当者・知見者・利用者・家族が参加し、2ヶ月に1回開催している。自治会長・老人会会長・民生委員にも参加を要請し、できる限り参加してもらっている。運営推進会議では、ホームの活動・行事を報告すると共に、リスクマネジメント・感染症・防災訓練などへのホームの取り組みを説明し、参加者からの意見・要望を聞いて、サービスの質の向上に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8)
	苦情・意見を表明しやすい雰囲気作りに配慮し、主に面会時・運営推進委員会で苦情・意見をうかがっている。意見箱を設置し匿名でも表明できるように配慮している。また、「外食・外出について」など特定な項目についてご家族にアンケートを配布し意向を確認しているが、サービス全般についての意向の確認には至っていない。出された意見については、個人のケース記録に記載すると共に、連絡ノートに記入し周知しているが、「苦情・要望報告書」等の形で記録として残すには至っていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	自治会に加入し、だんじり祭りに参加している。幼稚園に招待されて歌・踊りを鑑賞したり、バザーに手作りの踏み台をプレゼントするなど交流している。小学校にも働きかけ、日中散歩中に安全パトロールをしたり、運動会に招待されたりする予定である。自治会・老人会に働きかけを行っているが、参加・交流には至っていない。

## 2 調査報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく」を中心に「尊重」「受容」「信頼」「コミュニケーション」を理念としている。この理念は開設当初、職員全員で話し合い作り上げたもので、現場に即した理解しやすいものであり職員の思い入れも感じられる。グループホームの地域密着型サービスとしての役割を目指したものとして、「家庭的な環境と地域住民との交流との下で」という内容が盛り込まれることが望ましい。	○	制度改正により、グループホームの地域密着型サービスとしての役割を目指したものとして、「家庭的な環境と地域住民との交流との下で」という内容が盛り込まれることが求められているため、検討されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設当初職員全員で作った理念であるため、理解し共有している。新入職員には、面接・オリエンテーション時に理念を十分に説明している。また、フロア内に理念を掲示し日々確認し、向上会議では理念に立ち戻って話し合い、日々のケアに反映させている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、だんじり祭りに参加している。幼稚園に招待されて歌・踊りを鑑賞したり、バザーに手作りの踏み台をプレゼントするなど交流している。小学校にも働きかけ、日中散歩中に安全パトロールをしたり、運動会に招待されたりする予定である。自治会・老人会に働きかけを行っているが、参加・交流には至っていない。	○	今後も、自治会・老人会への働きかけを継続すると共に、地域包括にも協力を要請し、参加・交流を実現することを期待する。

3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4	7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価結果は職員全員に回覧し、向上会議でも発表し、改善策を話し合い、改善に向けて取り組んできた。今回の評価項目についても向上会議で説明し、管理者が作成した自己評価を回覧し、職員の意見を取り入れて完成させた。</p>	
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>行政担当者・知見者・利用者・家族が参加し、2ヶ月に1回開催している。自治会長・老人会会長・民生委員にも参加を要請し、できる限り参加してもらっている。運営推進会議では、ホームの活動・行事を報告すると共に、リスクマネジメント・感染症・防災訓練などへのホームの取り組みを説明し、参加者からの意見・要望を聞いて、サービスの質の向上に反映させている。</p>	
6	9	<p>○市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事故報告などの報告を行っているが、運営推進会議以外での交流はあまり行えていない。</p>	<p>○ 自治会・老人会とのかかわりについてなど、市役所・地域包括の協力が必要なことについて相談し連携をとり、サービスの質の向上につなげていくことを期待する。</p>
4. 理念を実践するための体制				
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1度「ノア通信」を発行し、ホームの行事・活動を定期的に報告している。面会に来られる家族が多いため、個別の報告は主に面会時口頭で行っている。緊急の連絡・報告については、随時電話で行っている。面会に来られない家族には、「ノア通信」送付の際、手紙を添えて報告している。</p>	

8	<p>15</p> <p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情・意見を表明しやすい雰囲気作りに配慮し、主に面会時・運営推進委員会で苦情・意見をうかがっている。意見箱を設置し匿名でも表明できるように配慮している。また、「外食・外出について」など特定な項目についてご家族にアンケートを配布し意向を確認しているが、サービス全般についての意向の確認には至っていない。出された意見については、個人のケース記録に記載すると共に、連絡ノートに記入し周知しているが、「苦情・要望報告書」等の形で記録として残すには至っていない。</p>	○	<p>家族は、苦情や意見を言い出し難いということを理解し、サービス全般について、満遍なく家族の意向が確認できるアンケートを定期的実施することが望ましい。また、出された苦情・意見などは記録として残し、データを集積・分析することによりサービスの質の向上に役立てることを期待する。</p>
9	<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者に与えるダメージを考慮して移動は極力避けている。管理職は、職員が問題を抱え込んで悩むことがないように、声かけし話し合い、共に問題を解決し離職を避けるように努力している。離職者は少なく、開設当初から勤続している職員も多い。</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>				
10	<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の案内を回覧し、職員が偏りなく参加できるように声をかけ受講を勧めている。受講後は、伝達研修を持ち知識・情報の共有を図っている。1ヶ月に1回の頻度で内部研修の年間計画を立てているが、現在計画通りの実施には至っていない。また、職員の到達度に即した職員育成ができる取り組みを現在検討中である。</p>	○	<p>新入職者のオリエンテーションについてマニュアルを作成し、内容を統一することが望まれる。また、年間計画に基づいた内部研修の実施と共に、職員一人ひとりに応じた段階的な職員育成を期待する。</p>
11	<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催される南区グループホーム情報交換会や1年に2回開催される堺市グループホーム情報交換会に、管理者・ケアマネジャー・主任が参加し、情報の収集・交換を行っている。また、南区のグループホームとは、勉強会・見学会などを通して、職員間の交流を持ち、サービスの質の向上につなげている。</p>		

<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用希望の方には、まず見学と説明により、利用者と家族にグループホームを知ってもらい、体験入所・ショートステイを通して、混乱なく安心して利用に移行していけるように取り組んでいる。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
13	27	<p>○利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>理念に掲げている通り「コミュニケーション」を大切にすることで、利用者一人ひとりの感情を汲み取るように心がけ、共に暮らしているという安心感が持てるように配慮している。また、食事の下ごしらえ・配膳・下膳・後片付け・洗濯物たたなど、生活の中で役割と活躍の場を提供することで、協働しながら生活していることが実感できるように取り組んでいる。</p>	
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用開始時のアセスメントの際、利用者・家族から思い・意向を聞き取り把握している。また、入所後の「コミュニケーション」の中でさらなる把握に努めると共に、家族の面会時に情報を得るようにし、日々の生活に反映させている。</p>	
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初回の介護計画は、利用開始時のアセスメントの際、管理者・ケアマネージャー・計画作成責任者が利用者・家族から意向・要望を聞き取り、理念である「その人らしく」生活できるための介護計画を計画作成責任者が作成し、利用者・家族の同意を確認している。</p>	

16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状況が変化した場合は、計画作成担当者が担当職員と面談・情報を収集し、介護計画の見直しを行っている。また、家族からの新たな要望や意向は面会の際に確認して、随時計画の見直しに取り入れている。月1回の向上会議の中でケアカンファレンスの時間をとり、介護計画の見直しを行っているが、利用者全員に対して定期的には実施されるには至っていない。</p>	○	<p>モニタリング表などを作成し、計画の実施状況・効果などを評価し、向上会議で利用者全員について、月1回は必ず、定期的な見直しが実施できるような取り組みが期待される。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>週3回の透析治療を受けながら安定した生活を送れるような支援を行ったり、利用者の要望・必要に応じて訪問看護・訪問リハビリなどが利用できるようにしている。個別の外出支援として、1年に1回馴染みの場所への外出を計画・実施している。</p>		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関から、内科と心療内科の往診が月に2回、歯科の往診が週に1回ある。又、利用者・家族の希望を聞き、整形外科や皮膚科の往診を適宜依頼している。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に利用者・家族に看取りの方針を説明し意志の確認をおこなっている。又、利用者の状況変化に応じて、主治医・看護師・職員・家族が参加した話し合いの場を設け、チームとして統一した支援が出きるようにしている。ただ、重度化・終末期についての方針の明文化・対応マニュアルの作成などには至っていない。</p>	○	<p>重度化・終末期に向けた事業所の方針を明文化し、対応についてマニュアルを作成し、全職員を対象に定期的・系統的な研修を実施するなど、職員全員で対応方針を共有できる取り組みが期待される。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇り・プライバシーを尊重した言葉かけ・接遇がなされている。利用者の尊厳・羞恥心への配慮については、日々の業務の中で常に注意を促し、徹底している。また、個人情報の取り扱いについては、入職時に説明を行い、守秘義務についての誓約書交わしている。	○  個人情報保護・取り扱い、プライバシーの尊重について、職員全員が周知徹底し共通認識を持つためには、マニュアルを作成し、研修会など定期的に確認できる機会を設けることが望ましい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な1日のスケジュールは決めているが、利用者1人ひとりの残存能力に沿った支援を行い「その人らしい生活」が送れるように取り組んでいる。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	カロリー計算や栄養バランスに配慮した献立で食材が搬入され、利用者と職員が協働して食事作りを楽しんでいる。週1回は、利用者に希望を聞き献立を決め、職員と一緒に買い物に出かけ食事作りを楽しんでいる。また、月1回は、利用者ができる献立でレクリエーションとしての食事作りやおやつ作りを企画し実施している。利用者は自分のペースで食事を楽しみ、職員は必要に応じてさりげなくサポートし、談笑しながら家庭的な雰囲気がある。	
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調・希望に沿って、2日に1回は入浴していただくように取り組んでいる。午前中に入浴時間を設定しているが、希望・状況に合わせて個別に対応し、順番や湯温などにも配慮をしている。	

(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ・配膳・下膳・後片付け・洗濯物たたみなどできることを見極め家事に参加してもらったり、書道・将棋など趣味の継続を支援したり、個別に役割や楽しみごとが見出せるように取り組み、生活の活性化に努めている。牛乳パックで踏み台を製作し近隣の幼稚園に寄付して幼稚園児に喜んでもらうことに生きがいを見出し、全員で生き生きと作業に取り組まれている。	
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節・風景を楽しみながら近隣を散歩したり、おやつなどを買い物に行くなど、天候・ADLに合わせて日中散歩の機会が多く設けられるように取り組んでいる。散歩に行けない場合は、短時間でも外気に触れ気分転換が図れるように配慮している。	
(4)安心と安全を支える支援				
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は終日施錠されているが、職員は利用者の外出したい様子やそぶりを見逃さないように気を配り、直ぐに対応できるように配慮している。事業所は日中鍵をかけない支援の重要性を認識し、取り組みに向けて検討中である。	○  現在検討されている、利用者の安全を確保しながら日中鍵をかけないですむ取り組みが、実現されることを期待する。
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回、消防署と連携をとり、昼夜両方の時間帯を想定して、利用者参加で避難訓練を行っている。また、近隣の住民の協力を得て緊急連絡網に名前を連ねてもらっている。	



<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食の食事量は必ずチェックし、シートに記録、またチェックシートを用い水分量と排泄量のバランスが一目で分かるようにする事で体調管理ができるよう支援している。</p>	
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は、自然な採光が取り入れられ、明るく清潔な空間となっており、家庭的で落ち着いた居心地の良い場所となっている。共に過ごせる空間の他に、一人または少数で過ごせるソファも配置され、それぞれがくつろげる空間が提供されている。観葉植物・花を飾り、季節が感じられるように配慮されている。</p>	
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者一人ひとりがその人らしい生活ができるように、使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、個性的な居室になっている。</p>	

※   は、重点項目。